

クローバー

医療は進む

副院長 宗本 滋
脳神経外科・リハビリテーション科



昨年はコロナ禍が社会を覆いました。全国でワクチン接種、行動制限、一方、病院でも感染予防対策処置など多くの業務が追加されました。当院では感染対策チームが積極的に新規情報に基づき、次から次へと対策を立案遂行し、現在も予防に取り組んでいます。

通常、病気は患者さんとその家族に多大の負担を引き起こすものですが、強力な感染症は社会全体に悪影響を及ぼすということを改めて実感させられました。科学の進んだ現代では感染症もかなり克服されたものと思込んでいた方も多いと思います。天然痘やポリオの撲滅、あるいは結核、エイズなど多くの感染症が報告はされるものの限局されてきたものにとらえていました。時にSARSなど危険というニュースが流れても自分の身の回りに迫っているという自覚はありませんでした。

今回改めて、感染症が人間社会に及ぼす凄さを痛感しています。しかしながら、原因はCovid19ウイルスと特定し、本体も撮影提示されています。また、予防ワクチン、治療薬も続々発表されてきています。私たちは現代医学の総力結集という状態の真っ只中にいるように思います。

人類には常に感染症が繰り返し、繰り返し、襲ってくるようです。中世14世紀のペスト(黒死病)の感染はすさまじく、ヨーロッパの1/3あるいは1/4が死亡したとのこと。当時の医師のペスト対策服(写真1)を見ると何か呪術で医療を行っていたかのように見えますが、当時なりの理由があるようです。ペストの怖さは知っているものの病原体は知らない。しかし、強力な伝染病であることは周知されていました。体を服で覆う、顔はマスクで、手は手袋で患者さんを直接触らず、杖で触る、空気に感染のもとがあるということでマスクの嘴には悪臭よけと防御のためのハーブを入れていたようです。もちろん、治療薬もなく、感染防御対策として、異郷からの来訪者は主に船内に30-40日間の隔離を行っていたとのこと。

検疫の英語quarantineカーンティーンはイタリア語の40日間という語から来ているといわれています。

現在を見ると医師の防護服は全身を覆うガウン、顔などは透明ガード、軽い素材が使われ、しかも1回使用のみです。時に結核菌などは完全遮断マスクなど使用します。(写真2)現在の、隔離政策や、体を覆う、伝染させないという考えは当時と同様にも思えます。

世相としても「医療崩壊、逼迫」などという言葉が頻りに目にしますが、医療は着実に進歩してきています。いろいろな病気の原因究明と対策でたゆまぬ努力が続けられています。

おわりに 当院も脳神経外科病院として着実に進歩しており、より一層の社会貢献を目指しております。今後ともよろしく願いいたします。

【参考文献】

1. 人類と感染症の歴史 加藤茂孝著 丸善出版 2013年
2. 図説 医学の歴史 アルバート・S・ライオンズ、R・ジョセフ・ペトルセリ著 小川鼎三監訳 日本ペーリンガー・インゲルハイム株式会社 1983年



(写真1) 黒死病 医師の服装
くちばしのついた仮面と
ガウン
ベルギー
ブリュッセル自由大学医学博物館
(2006年 筆者 撮影)



(写真2) ワクチン接種センター
で接種希望者が結核疑いの
ため急遽ガウン、顔面シールド、
N95結核菌遮断マスク 着用
(2021年 筆者)

地域医療福祉部の紹介

地域医療福祉部は各医療機関、福祉施設、行政などと連携し受診や入退院が円滑に行えるよう日々業務を行っています。入院中、通院中の困りごとについて支援をさせていただきます。



患者さんと医療機関の
架け橋として全力で
サポートいたします！



地域医療連携課

地域の医療機関と連携をとり当院での治療が必要な方の紹介をいただいたり、安定期にはかかりつけ医への通院を依頼するなど、切れ目のない医療を提供する努力をしています。また、救急隊との情報交換を密に行い定期的に勉強会などの企画運営、脳卒中の治療や予防についての啓発活動として、一般の方向けの講演会の立案なども行っています。特に当院では若い方にも脳卒中を知ってもらうため小中学生と保護者を対象に「夏休み親子脳卒中教室」を開催し各方面から好評をいただいています。

医療福祉相談課

専門職である医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)が患者さんやご家族などが抱える経済的・心理的・社会的問題の解決・調整を支援します。そのため種々の福祉制度利用の説明や情報提供、退院通院先の調整を行い生活が円滑に行えるようサポートします。当院では相談機関や連携機関との交流会や事例検討会などを積極的に行い、地域で協働できるように取り組みを行っています。

患者さん、
ご家族などの声を大切に
支援しています！



入院決定時から
関わらせていただき、
継続した看護を
提供いたします。



入退院支援課

入退院支援看護師が入院決定時から退院後を見据えた支援を行っています。退院後も住み慣れた地域で継続して生活できるように関係各所と調整を行います。入院決定時から関わることで安心して治療を受けられるよう支援を行い退院後の不安を軽減する役割があります。

かかりつけ医検索システムのご紹介



当院と連携している医療機関(2/1現在 315施設)の中からお希望の施設を検索できるパソコンを外来待合に設置しました。「あいうえお」「地域」「(図1)」「住所」「駅」などの条件で検索が可能です。たとえば自宅住所の1km~10km圏内にある施設を探すことも可能です(図2)。かかりつけ医を探す際にぜひ、ご利用ください。



◀図1

図2▶

3テスラMRIが2台稼動（放射線部）

当院は昭和60年にMRIを導入してから常に第一線の検査機器として利用してきました。

脳梗塞の早期発見、脊髄の診断等これまでのCT検査だけでは得ることの出来なかった画像を得ることが出来、診断の助けとなってきました。MRIの検査数は年を追うごとに増え、平成20年に当地に移転した際には「外来の検査予約の廃止」「外来検査のMRIファースト」、「検査待ち時間短縮」を目指し、脊椎疾患に対して1.5テスラ、頭部検査を3テスラという2台体制としました。

平成29年から当院でも血栓回収術等の急性期血管内治療がはじまり、急性期脳血管障害へのMRIの需要が高まる中、耐用年数が経過した1.5テスラを3テスラへ令和3年12月に更新しました。3テスラ2台体制が実現できたことにより、検査時間が短縮できるだけでなく、これまで行えなかった検査にも対応できるようになります。我々放射線部も診断の手助けになる画像を提供できるように日々努力しています。



※テスラとは

磁場強度のことであり、この数値が約2倍になることで、より微細な病変を抽出できます。

新型コロナウイルスおよびインフルエンザ等の感染症対策について

当院では、引き続き患者さん・医療従事者等を感染から守るために、院内の感染対策の徹底を強化しています。ご理解・ご協力をお願いします。（病院長）

対応に関しては常時変更となる可能性があります。最新情報は当院のホームページに掲載しています。



病院
理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。



日本医療機能評価機構 認定病院

医療法人社団 浅ノ川

金沢脳神経外科病院

石川県野々市市郷町262-2

TEL:076-246-5600 FAX:076-246-3914

<http://www.nouge.net>

金沢脳神経外科病院 広報誌 第81号 発行:広報委員会
2022年2月25日発行